

1 飛鳥宮跡における景観

b. 主要な視点場から飛鳥宮跡への景観

□ 「見る・見られる」双方向の視点場

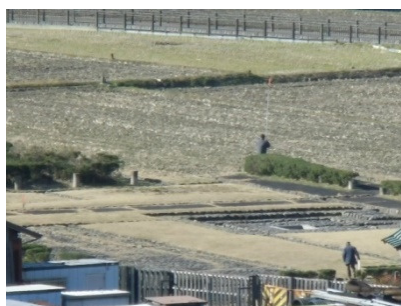
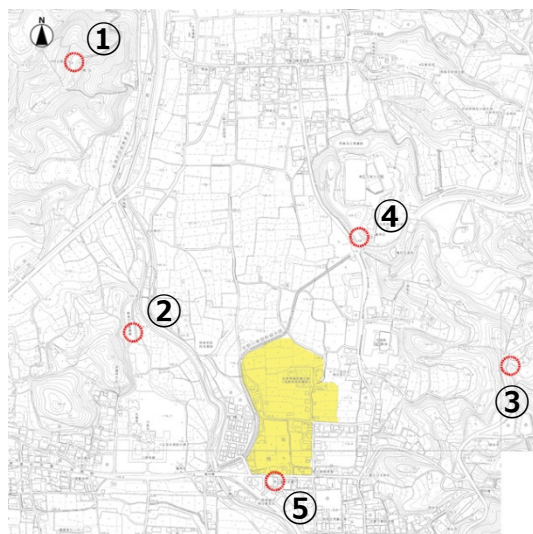
- ① 甘樫丘展望台
- ② 川原寺寺域北限
- ③ 主要地方道桜井明日香吉野線（岡寺付近）
- ④ 万葉展望広場
- ⑤ 明日香村庁舎屋上



①甘樫丘展望台より



②川原寺寺域北限より



③桜井明日香吉野線(岡寺付近)より



④万葉展望広場より



⑤明日香村庁舎屋上より

1 飛鳥宮跡における景観

明日香村景観計画から、飛鳥宮跡に関わる方針を整理する

2) 明日香村景観計画における位置づけ

(1) 景観ゾーンの景観形成方針

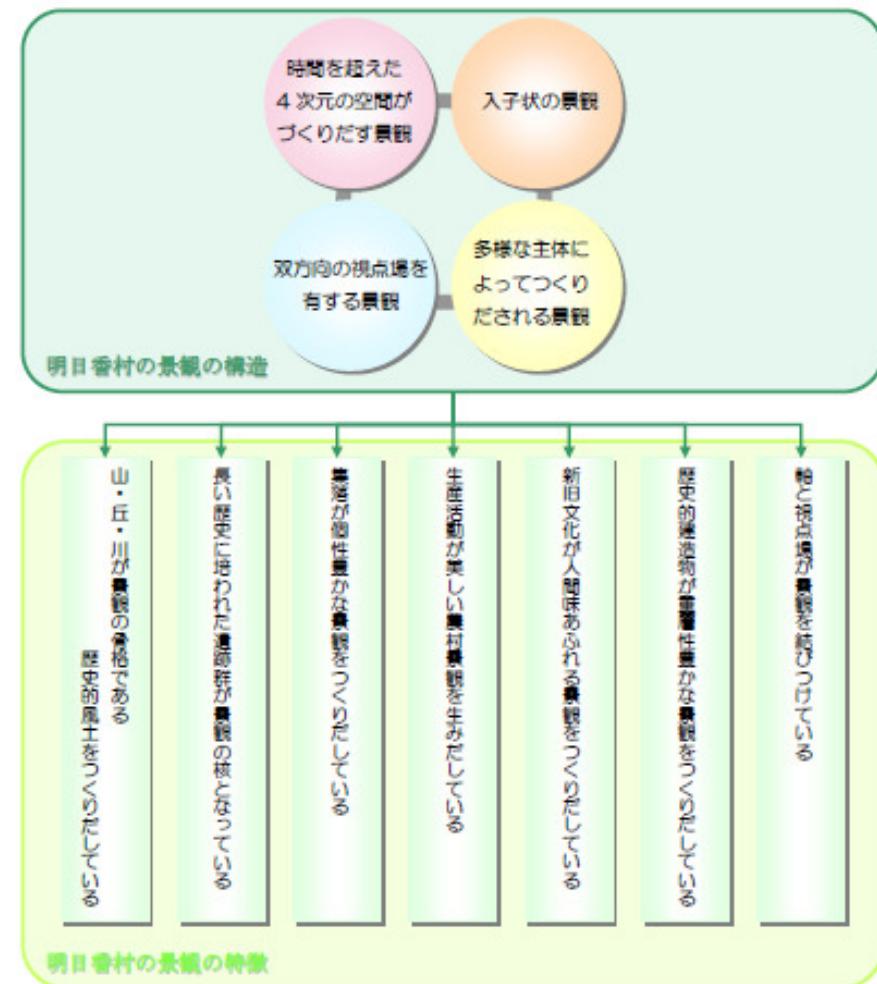
- 重要歴史的景観ゾーン：
 - ・ 史跡と周辺の自然環境が一体となった歴史的景観の保全
 - ・ 発掘調査や保存整備手法の継続的な実施による、歴史的景観の価値の向上
- 市街地賑わい景観ゾーン：
 - ・ 明日香村の玄関口にふさわしい風格のある交流拠点景観の創出
 - ・ 歴史的風土と調和した明日香村らしいにぎわい景観の再生・創出

(2) 景観軸の景観形成方針

- 河川軸－飛鳥川（下流）：
 - ・ 河川と一体となった広がりのある眺望景観を創出
 - ・ 万葉集に詠まれた文学的な景観の保全・創出
- 歩行者道路軸－飛鳥周遊歩道：
 - ・ ヒューマンスケールの変化に富んだ景観の保全・創出

(3) 視点場の景観形成方針

- 歴史的景観の視点場－伝飛鳥板蓋宮跡：
 - ・ 歴史文化遺産と周辺自然環境が一体となった明日香村の歴史的風土の価値を維持・継承
 - ・ 明日香村の歴史的風土の再生
 - ・ 明日香村の歴史的風土の価値をより多くの人々が享受できる場としての視点場の整備



■ 明日香村の景観特性

1 飛鳥宮跡における景観

飛鳥宮跡の活用を検討する上での景観の考え方を整理する

3) 活用における景観の考え方

(1)明日香村景観計画を踏まえた飛鳥宮跡の景観の考え方

- 明日香村の歴史的風土景観の枢要な構成要素
 - ・ 地下に存在する「今は見えない」遺跡と「見える」景観が一体となって歴史的風土景観を形成する、明日香村の景観の中心的な場
 - ・ 『真神原』の周囲に展開するきめ細かな変化に富んだ景観を一望できる場
- 「見る・見られる」双方向の代表的な視点場
 - ・ 明日香村の景観を体感でき、最も理解しやすい場

(2)大切にしたい景観

- 古代から受け継がれてきた山並みの景観
 - ・ 古代の人々が見た風景を、現代人も共有できる場所
 - ・ 飛鳥宮跡及び明日香村の「価値」の一つとして将来に伝えたい
- 守られてきた景観
 - ・ 山並みへの眺望
 - ・ 山並みの手前に広がる田園風景

(3)活用における景観の考え方

- 飛鳥宮跡の利活用においても、歴史的風土の保全・継承を最優先課題とする
 - ・ 活用のための施設について、景観の支障とならない位置・規模（高さ・長さ）等の検証を行う
 - 甘樫丘をはじめとする周辺視点場からの「見え方」だけでなく、飛鳥宮跡から「見える」景観の保全・活用に配慮する
 - ・ 景観の双方向性を意識した利活用
 - 飛鳥宮跡から見える景観を活用にも活かす
 - ・ 視点場の特性を活かした活用の検討
 - ・ 万葉に詠まれた場所・風景を活かす
- ※ 明日香村には万葉集に詠われた地名が数多く存在し、全国の万葉故地の中でも最も多いとされている
- ・ 飛鳥宮の天皇や貴族の詠んだ歌を、飛鳥時代の人々や宮殿を、親しみやすく身近に感じるための素材として活かす



◆万葉歌碑
我が里に 大雪降りり 大原の
古りにし里に 降らまくは後：天武天皇